

原発再稼働は30km圏内すべての自治体の同意を 柏崎刈羽原発から30km圏内の自治体議員など37人が集まり、研究会設立

「原発再稼働の事前了解を有した新たな安全協定」をめざし、調査研究をする会の設立総会が30日、見附市で開かれました。会には30km圏内8市町から43人、30km圏外からオプザーバーとして8人が参加することになっていますが、この日の総会には、このうち37人が参加しました。

見附市議は、挨拶の中で、「これからが本番。次世代のためにも事前了解権（獲得）を何がなんでも成功させたい。原発の賛否や国のエネルギー基本計画の賛否、思想・信条の違いなどを超えて取り組み、よい結果を出せると確信している。目標としては2年弱で協定案策定をめざす」とのべました。

総会では、「東京電力は原発立地自治体だけでなく30km圏内自治体とも再稼働事前了解を得る安全協定を結ぶべく、『安全協定案づくり』をする」という研究会の設立趣旨、運営に関する申し合わせ事項などを確認し、会長には関三郎見附市議、副会長には太田裕子十日町市議と牧田正樹上越市議を、事務局長には関貴志長岡市議を選びました。



【ホテイアオイ】ミズアオイ科の多年生の水草。漢字で「布袋葵」と書きます。別名は「ホテイソウ」。8月28日の朝市で初めて見ました。薄紫色の花が涼しそうで、素敵です。花は8月。メダカを飼うためにホテイアオイを育てている人がけっこういます。花言葉は「恋の悲しみ」「揺れる心」など。



研究会で明らかにされた参加者名簿では、見附市議会からの参加が最も多く8人、次いで上越市議会、柏崎市議会の7人、十日町市議会、長岡市議会の6人、小千谷市議会、燕市



※上のイラストは研究会の役員メンバー（一部）。右は村上達也元東海村長。

「日本における原子力政策の転換の大きな力ぎを握っているのは柏崎刈羽原発だ。新しいコロナ時代を迎えて再検討しなければならぬ」として、茨城での経験を熱く語りました。



先日、吉川郵便局に出かけたら、絵手紙展をやっていました。花火や野菜など夏にぴったりの作品がいくつもありました。みなさん、うまいですね。



市議会主催の市民との意見交換会で大島区細越の方が「針金などが出ていて危ない」と指摘された、県道の歩道わきの斜面は、8月27日、きれいに草が刈られ、針金などは撤去されました。行政の素早い対応に感謝です。

はしづめ法一の活動レポート

No.1975 2020.9.6
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見である記」はこちら

橋爪法一 検索

春よ来い 第六二二回 手づくりアイス

先日の土曜日にも猛暑でした。朝からミンミンゼミが激しく鳴き、気温はぐんぐん上昇、タオルなしには動かせませんでした。

車に母を乗せて帰宅するところが目に入ったのでしようか、近くに住むYさんが、母を家の中に入れて、車に戻ろうとしたときにやってきて、「おばあちゃんだよ」と声をかけてくださいました。

「そい。いま入ったばかりなんだわ」と私が答えたら、

「元気でいっくんなんだから、励まされるんだわ。うちは十分介護しないうちに、おふくろが逝っちゃったから、頑張ってもらいたい」

と言われました。確か、Yさんのお母さんは私の母と同じ大正一三年生まれだったと思います。それだけに、Yさんは私の母の姿と重ねるなかでお母さんを思い浮かべることが多いのでしよう。

続いてYさんは、

「家に来て、お経あげてくださいるお寺の住職さん、アイスクリームが好きでいらっしやるんで、抹茶アイス作ってあるんだけど、合うかどうか食べてみて、おばあちゃんにやってみて……」

そう言うと、自宅に戻り、そのアイスクリームを届けようとした。

見た途端、びっくりしましたね。アイスクリームが入った容器は少なくとも直径二〇センチはある大きなものだったからです。アイスクリームを自宅で作る人がいることは聞いたことがありますが、これほど大きいものを作る人がいるとは……。

Yさんはアイスクリームだけでなく、凍っているアイスクリームを取り出す専用スプーンまで、持参してくださいました。

Yさんによると、普通のスプーンでアイスクリームを取ろうとすると、折れてしまうことがあるから、がっちりタイプのスプーンを使用した方がいいというのです。

遠慮なくお借りすることにしました。

台所で、いただいたアイスクリームの容器のふたを開けてみたら、中は薄緑色の抹茶アイスクリームが入っていました。そこには攪拌時の模様が入っていて、作った過程が見えます。それだけでも食欲をそそられます。そして、どう見ても、がちがちに凍っています。普通のスプーンでは役に立たないことは一目でわかりました。

アイスクリームを、小さな皿に移し、母のベッドのところに持って行くと、母は「なしたか」と訊いてきました。

「Yさんからもらったがどね。おまんに食べてもらって」と

そう言うと母は、

「そいがか。アイス、きよんなもくんたがど」と言っていて、すぐに食べ始めました。Yさんのアイスクリームの味はすでに体験済みだったんですね。

「なじよだね、味は」と聞くと、首を縦に小さく振って

「うんめえ」と言っていて食べ続けました。

アイスクリームを食べ終わると、母は堰を切ったようにしゃべり始めました。

「デイサーブスにゃ、モリヨシのばちや、いになったし、東横山のコメ買つとこんしょもいになった」

「ヨシワラのせんざい畑の上、イドンシリ(屋号)のとちや、炭焼きしていなたたごでウド採りした夢、見とお」

お盆を自宅で過ごさなかつた母。「モリヨシのばちやいなたた」という母の言葉に「おやっ」と思ったのですが、物忘れの進行は如何ともしがたいものがあります。

でも、おかげ様で「なにかうんめもんあるが」と食欲は旺盛です。アイスクリームを食べているとき、母は言いました。「とちや、おまんもアイスくいなさ」

新型コロナのもとで地域経済、医療福祉をどう守るか

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	8月26日(水)	9月2日(水)
上越南消防署	0.047	0.053
上越北消防署	0.053	0.040
新井消防署	0.043	0.050
頸北消防署	0.053	0.053
頸南消防署	0.063	0.067
東頸消防署	0.050	0.050
名立分遣所	0.053	0.053
高士分遣所	0.053	0.057

にいがた自治体研究所からブックレットの新刊が出ました。本の題名は、「新型コロナ危機で問われる自治の力」です。

コロナ禍のなかで人間が人間らしく生きていくためには、地域で何をしていたらいいか。どういった活動が求められているか——全国を駆け回り、精力的に講演、執筆をしている京都大学名誉教授の岡田知弘さんをはじめ3人の研究者が書いてくださいました。地域で頑張る力をもらえるいい本に仕上がっています。

1冊、税込みで700円です。表紙写真は吉川区小苗代地内の田んぼ風景、撮影は私です。ご希望の方は、橋爪(携帯は090-5392-1961です。ファックス番号は025-548-3628)までお知らせ下さい。

新型コロナ危機で問われる自治の力

足元の「地域」に視点を置いた新しい新潟を

岡田知弘・竹島良子・大矢健吉 著



新型コロナウィルスの感染拡大は、自治体の在り方を厳しく問うものになっている。安倍政権の失敗、花角知事の無策が明らかになる中で、地域の力を生かして新しい新潟をつくり出すことが、いま求められている。

にいがた自治体研究所